

公衆衛生学・社会医学フィールド実習

⑥ 1 担当教員名

教授・医師	三浦克之（社会医学講座 公衆衛生学部門）	非常勤講師	
准教授	田中佐智子（社会医学講座 医療統計学部門）	埜田和史（びわこリハビリテーション専門職大学	
准教授	門田文（社会医学講座 公衆衛生学部門）		教授）
講師(学内)	北原照代（社会医学講座 衛生学部門）	佐藤嗣道（東京理科大学 薬学部薬学科 講師）	
助教	辻村裕次（社会医学講座 衛生学部門）	中村賢治（大阪社会医学研究所 所長）	
助教	近藤慶子（社会医学講座 公衆衛生学部門）	佐々木隆史（こうせい駅前診療所 所長）	
特任助教	岡見雪子（社会医学講座 公衆衛生学部門）	松井善典（浅井東診療所 所長）	
		田中英夫（大阪府藤井寺保健所 所長）	
		角野文彦（滋賀県 健康医療福祉部 理事）	

2 配当学年等

第4学年 前期

① 3 学習目標

公衆衛生（public health）とは、「共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進をはかるための科学であり、技術」（C. E. A. Winslow）である。わが国の医師法第1条には「医師は医療および保健指導をつかさどることによって公衆衛生の向上および推進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」と定められている。

疾病発症予防と健康増進のためには、人間社会に存在する健康問題を的確に把握し、それらと関連する要因を究明し、問題を解決する方法を理解し、実践する能力を身につける必要がある。このことを通じて、国民そして人類の健康を守る視点と能力を持つ医師となることを目標とする。

より具体的にはモデルコアカリキュラムにおける以下の項目を達成することを到達目標とする。

「社会・環境と健康」

- 1) 健康、障害と疾病の概念を説明できる。
- 2) 社会構造と健康・疾病との関係を概説できる。
- 3) 環境と健康・疾病との関係を概説できる。
- 4) 生態系の変化が健康と生活に与える影響を概説できる。
- 5) 地球環境の変化、生態循環、生物濃縮と健康との関係を説明できる。
- 6) 各ライフステージの健康問題（母子保健、学校保健、産業保健、成人・高齢者保健）を説明できる。

「地域医療」

- 1) 地域社会における医療の状況、機能および体制等を含めた地域医療について概説できる。
- 2) 医師の偏在の現状について説明できる。
- 3) 地域における、保健（母子保健、老人保健、精神保健、学校保健）・医療・福祉・介護の分野間および多職種間の連携の必要性について説明できる。
- 4) 地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を身に付ける。
- 5) 地域における、救急医療、在宅医療の体制を説明できる。
- 6) 地域医療に積極的に参加・貢献する。

「疫学と予防医学」

- 1) 人口静態統計と人口動態統計を説明できる。
- 2) 疾病の定義、分類と国際疾病分類（ICD）を説明できる。
- 3) 疾病・有病・障害統計、年齢調整率と標準化死亡比（SMR）を説明できる。
- 4) 疫学の概念と疫学の諸指標について説明できる。
- 5) 予防医学（一次、二次、三次予防）を概説できる。

「生活習慣と疾病」

- 1) 生活習慣に関連した疾病を列挙できる。
- 2) 生活習慣と肥満・脂質異常症・動脈硬化の関係を説明できる。
- 3) 生活習慣と糖尿病の関係を説明できる。
- 4) 生活習慣と高血圧の関係を説明できる。
- 5) 生活習慣とがんの関係を説明できる。
- 6) 喫煙と疾病の関係を説明できる。

「保健、医療、福祉と介護の制度」

- 1) 日本における社会保障制度を説明できる。
- 2) 医療保険と公費医療や介護保険を説明できる。

- 3) 高齢者福祉と高齢者医療の特徴を説明できる。
- 4) 産業保健（労働関係法規を含む）を概説できる。
- 5) 医療の質の評価（質の定義、クリニカルパス）を説明できる。
- 6) 国民医療費の収支と将来予測を概説できる。

「臨床研究と医療」

- 1) 研究デザイン（二重盲検法、ランダム化比較試験、非ランダム化比較試験、観察研究、症例対照研究、コホート研究、メタアナリシス）を概説できる。

「地域医療実習」

- 1) 地域における疾病予防・健康維持増進の活動を体験する。
- 2) 地域のプライマリ・ケアを体験する。
- 3) 病診連携・病病連携を体験する。
- 4) 地域の救急医療、在宅医療を体験する。
- 5) 多職種連携のチーム医療を体験する。

② 4 授 業 概 要

衛生学・公衆衛生学は主として人間集団・社会を対象とする点で患者個人を対象とする臨床医学と異なる特性（目的・方法・課題）をもつ。衛生学・公衆衛生学が対象とする社会は、その性格や行政機構とのかかわりとも関連して地域社会と職域（職場）、学校に分けられ、学問領域としてそれぞれ地域保健、産業保健、学校保健に分けられる。地域保健はライフステージに応じて、母性保健、小児保健、学校保健、成人保健、高齢者保健などに分けられ、また対象疾患に応じて感染症対策、精神保健などに分けられる。そのほか環境保健、国際保健などの分野がある。

また、公衆衛生において人間集団の健康問題を把握し、対策を明らかにする基本的方法が疫学である。疫学的手法の理解においては生物統計学の知識が重要である。

本学において、公衆衛生学部門は主に地域保健、衛生学部門は主に産業保健、学校保健と環境保健、医療統計学部門は疫学的手法の教育を分担する。

5 授 業 内 容 ③ ④

年月日(曜)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
令和2年					
4月9日(木)	4	全 員	社会医学フィールド実習1	オリエンテーション、序論、社会医学フィールド実習概要説明、実習テーマの提示	臨1
5月19日(火)	4	〃	社会医学フィールド実習2	グループ別討議と計画作成	臨1・臨3
5月26日(火)	4	三 浦	公衆衛生学1	公衆衛生学総論	臨1
5月27日(水)	4	全 員	社会医学フィールド実習3		臨1
5月27日(水)	5	〃	社会医学フィールド実習4		臨1
6月24日(水)	1	北 原	公衆衛生学2	衛生学総論	臨1
6月24日(水)	2	〃	公衆衛生学3	産業保健総論・労働時間	臨1
6月24日(水)	3	全 員	社会医学フィールド実習5		臨1
6月24日(水)	4	〃	社会医学フィールド実習6		臨1
6月25日(木)	1	埴 田	公衆衛生学4	環境衛生学総論・アスベスト	臨1
6月25日(木)	2	辻 村	公衆衛生学5	環境衛生学各論	臨1
6月25日(木)	3	衛生学全員	社会医学フィールド実習7*	環境衛生測定実習	臨3
6月25日(木)	4	〃	社会医学フィールド実習8*	環境衛生測定実習	臨3
6月26日(金)	1	近 藤	公衆衛生学6	生活習慣と健康1	臨1
6月26日(金)	2	田中(英)	公衆衛生学7	がんの疫学	臨1
6月26日(金)	3	角 野	公衆衛生学8	地域保健・衛生行政	臨1
6月26日(金)	4	三 浦	公衆衛生学9	社会保障・高齢者保健	臨1
6月29日(月)	1	門 田	公衆衛生学10	疫学方法論1	臨1
6月29日(月)	2	〃	公衆衛生学11	疫学方法論2	臨1
6月29日(月)	3	〃	公衆衛生学12	疫学方法論3	臨1
6月29日(月)	4	〃	公衆衛生学13	疫学方法論4	臨1
6月30日(火)	1	田中(佐)	公衆衛生学14	生物統計学	臨1
6月30日(火)	2	〃	公衆衛生学15	保健統計	臨1
6月30日(火)	3	佐 藤	公衆衛生学16	薬害	臨1
6月30日(火)	4	北 原	公衆衛生学17	夜勤・交代勤務、産業保健各論	臨1

年月日(曜)	時限	担当教員	項目	内容	教室
令和2年					
7月1日(水)	1	近藤	公衆衛生学18	生活習慣と健康2	臨1
7月1日(水)	2	北原	公衆衛生学19	女性・高齢者・障害者の産業保健	臨1
7月1日(水)	3	辻村	公衆衛生学20	農村保健・零細事業所	臨1
7月1日(水)	4	埜田	公衆衛生学21	学校と健康	臨1
7月2日(木)	1	全員	社会医学フィールド実習9		臨1
7月2日(木)	2	〃	社会医学フィールド実習10		臨1
7月2日(木)	3	〃	社会医学フィールド実習11		臨1
7月2日(木)	4	〃	社会医学フィールド実習12		臨1
7月3日(金)	1	〃	社会医学フィールド実習13		臨1
7月3日(金)	2	〃	社会医学フィールド実習14		臨1
7月3日(金)	3	〃	社会医学フィールド実習15		臨1
7月3日(金)	4	〃	社会医学フィールド実習16		臨1
7月6日(月)	1	〃	社会医学フィールド実習17		臨1
7月6日(月)	2	〃	社会医学フィールド実習18		臨1
7月6日(月)	3	〃	社会医学フィールド実習19		臨1
7月6日(月)	4	〃	社会医学フィールド実習20		臨1
7月7日(火)	1	〃	社会医学フィールド実習21		臨1
7月7日(火)	2	〃	社会医学フィールド実習22		臨1
7月7日(火)	3	〃	社会医学フィールド実習23		臨1
7月7日(火)	4	〃	社会医学フィールド実習24		臨1
7月8日(水)	1	〃	社会医学フィールド実習25		臨1
7月8日(水)	2	〃	社会医学フィールド実習26		臨1
7月8日(水)	3	〃	社会医学フィールド実習27		臨1
7月8日(水)	4	〃	社会医学フィールド実習28		臨1
7月9日(木)	1	〃	社会医学フィールド実習29		臨1
7月9日(木)	2	〃	社会医学フィールド実習30		臨1
7月9日(木)	3	〃	社会医学フィールド実習31		臨1
7月9日(木)	4	〃	社会医学フィールド実習32		臨1
7月10日(金)	1	〃	社会医学フィールド実習33		臨1
7月10日(金)	2	〃	社会医学フィールド実習34		臨1
7月10日(金)	3	〃	社会医学フィールド実習35		臨1
7月10日(金)	4	〃	社会医学フィールド実習36		臨1
7月13日(月)	1	〃	社会医学フィールド実習37		臨1
7月13日(月)	2	〃	社会医学フィールド実習38		臨1
7月13日(月)	3	〃	社会医学フィールド実習39		臨1
7月13日(月)	4	〃	社会医学フィールド実習40		臨1
7月14日(火)	1	〃	社会医学フィールド実習41		臨1
7月14日(火)	2	〃	社会医学フィールド実習42		臨1
7月14日(火)	3	〃	社会医学フィールド実習43		臨1
7月14日(火)	4	〃	社会医学フィールド実習44		臨1
7月15日(水)	1	〃	社会医学フィールド実習45	社会医学フィールド実習発表会	臨1
7月15日(水)	2	〃	社会医学フィールド実習46	社会医学フィールド実習発表会	臨1
7月15日(水)	3	〃	社会医学フィールド実習47	社会医学フィールド実習発表会	臨1
7月15日(水)	4	〃	社会医学フィールド実習48	社会医学フィールド実習発表会	臨1
7月16日(木)	1	〃	社会医学フィールド実習49	社会医学フィールド実習発表会	臨1
7月16日(木)	2	〃	社会医学フィールド実習50	社会医学フィールド実習発表会	臨1
7月16日(木)	3	〃	社会医学フィールド実習51	社会医学フィールド実習発表会	臨1
7月16日(木)	4	〃	社会医学フィールド実習52	社会医学フィールド実習発表会	臨1
7月28日(火)	2		衛生学 試験		臨3
7月28日(火)	4		公衆衛生学・医療統計学 試験		臨3

6 授業形式・視聴覚機器の活用

1) 講義

講義においては、教材としてプリントを配付し、適時、プロジェクターを用いて、パワーポイントやビデオ等を使用する。また、教科書、必須図書の指定部分の予習を求める。また、環境測定機器、労働衛生保護具などの実物示説も行う。講義の都度、授業感想文あるいは授業評価表の提出を求める。

2) 疫学方法論（公衆衛生学部門・医療統計学部門担当）

疫学方法論は、疫学の理論を実際例に当てはめて理解を深めようとするものであり、計算を含む問題を実際に解いてみる。講義や本を読んで理解したように思っても、実際には身につけていないことが多い。演習では、電卓を必要とするので持参のこと。

3) 環境衛生測定実習（衛生学部門担当）

（上記授業計画表の*印、6月25日（木）3・4時限）

グループ別に環境衛生測定器具を用いて実習を行う。レポート提出（実習後1週間以内）をもって完了とする。レポートは、目的（与えられた環境要因を測定するのは、どのような人々の、どのような健康障害を防止するためなのかを明確にすること）、対象、方法、結果を記したもの（グループ単位、A4サイズ）と、各個人の考察（測定結果に関する考察と、対象とした環境要因の人体に対する影響（地球環境を介してでもよい）、A4サイズ 2枚以内）を記したもので構成すること。

4) 社会医学フィールド実習（4～7月、公衆衛生学・衛生学部門・医療統計学部門合同で担当）

『地域、職域や学校で生活する人々の健康保持と増進を実現するための医学専門家としての能力を、実社会の中での実践活動を通じて身につける』ことを目標に、「少人数能動学習」方式により実習する。4月9日（木）にオリエンテーションを行い、その後グループとテーマを決定する。グループごとに指導スタッフが決められ、その援助・指導を受けながら実習を進める。5月の授業の中で、実習計画を作成する。本実習は、7月の発表会と実習成果報告書提出受理をもって終了とする。

4-1) 本実習は、公衆衛生学部門・医療統計学部門と衛生学部門が第4学年の約半数ずつをそのテーマに応じ分担して担当する。主な実習テーマは以下の通りであるが、具体案はオリエンテーションのときに示す。

（主なテーマ）

公衆衛生学部門・医療統計学部門……疫学、地域保健、成人保健、老人保健、健康教育、保健医療制度、生物統計学など
衛生学部門……労働と健康、女性・障害者・高齢者の予防医学、農村医学、地域医療、学校保健など

4-2) 実習は6～9名程度のグループごとに1つのテーマで行う。

4-3) 実習の進め方

(1) 4月17日（金）までに、フィールド実習の指導を受ける部門（公衆衛生学部門・医療統計学部門または衛生学部門のどちらか）を決め、実習グループのメンバーとテーマを決定する。

(2) 5月19日（火）4限目に公衆衛生学部門・医療統計学部門と衛生学部門に分かれ実習の進め方を個別に具体的に説明するので、公衆衛生学部門・医療統計学部門配属予定者は臨床講義室1（もしくは事前に指定した場所）に、衛生学部門配属予定者は臨床講義室3に集合する。

(3) グループ及びテーマ決定後は、グループ毎に実習の記録（日時、参加者、内容、経費など）を残す。実習はグループ毎に担当の指導スタッフと相談しながら進める。原則として全員が揃って、指導スタッフに進行状況などを報告し、指導を受ける。

(4) 7月15日（水）と7月16日（木）には、グループ単位で実習成果の発表会を行う。発表プログラムは直前に通知するが、発表の有無に関係なく、両日とも全員が出席し、各発表を相互評価する。なお、発表会は公開される。

発表会の前日までに、各グループは指導スタッフとよく協議し、発表会の抄録（A4用紙1枚以内、タイトル、メンバー名および1. 目的と意義、2. 対象と方法、3. みんなに伝えたいこと、を記載）を作成する。また、発表会（発表20分、質疑応答10分予定）では、ビデオ、パソコンの使用もできる。

(5) 8月28日（金）午後5時までに、発表会で指摘された箇所などを指導スタッフと協議し修正の上、実習成果報告書を作成し、指導スタッフに提出する。

4-4) 実習成果報告書作成要領

報告書本文は、タイトル、メンバー名、1. 目的、2. 対象と方法、3. 結果、4. 考察、5. 結論、6. 謝辞、7. 参考文献の要領で構成し、図表を含めてA4用紙（縦使用・周囲に2cmの余白・片面印刷）4～6枚にまとめる。報告書本文はワープロ使用を原則とする。提出はA4用紙の印刷物および電子ファイルとする。

上記本文の他に、各メンバーの所感（A4用紙縦使用）、調査で得られた資料、映像、実習ノート、報告書本文に掲載できなかった分析結果、発表資料などを整理して、冊子や電子記憶媒体（CD等）にまとめたものを指導スタッフに提出する。

⑦ 7 評価方法

1) 出欠の取り扱い、及び評価方法

1-1) 出欠と遅刻の取り扱い

オリエンテーション、環境衛生測定実習、社会医学フィールド実習発表会において、欠席・遅刻する場合は事前に担当部門（公衆衛生学または衛生学）に直接連絡すること。事前連絡なく欠席した場合は無断欠席とする。やむを得ず事前連絡できなかった者は速やかに診断書、または事由書を提出すること。正当な理由による欠席と認められた場合は無断欠席としない。

社会医学フィールド実習については、時間数の3分の2以上出席しなかった者や発表会を1日でも無断欠席した者は不合格とする。

環境衛生測定実習を無断欠席した者および完了しなかった者は、衛生学部門の定期試験受験資格を失う。

社会医学フィールド実習発表会において、各グループの発表開始から15分を過ぎて入室した者を遅刻とし、遅刻者については、「公衆衛生学部門・医療統計学部門」および「衛生学部門」の定期試験で減点処分を行なう。

1-2) 評価方法

公衆衛生学：「公衆衛生学部門・医療統計学部門」と「衛生学部門」がそれぞれ定期試験・再試験を行い、両者の合格をもって単位認定とする。試験は筆記試験とし、その範囲は当該の授業、教科書、必須図書である。なお、衛生学部門は定期試験成績95%、環境衛生測定実習5%（グループ単位分2%、個人の考察分3%）の配分で評価する。成績については、「公衆衛生学部門・医療統計学部門」と「衛生学部門」の評価の平均点の小数点以下を切り上げる方式とする。

社会医学フィールド実習：成績は、実習全体を通じての目標達成度や態度により、5段階で評価する。原則としてグループ単位で採点する。その際、フィールド実習発表会における学生による相互評価結果も参考にする。

「公衆衛生学部門・医療統計学部門」の定期試験においては、滋賀医科大学医学部医学科授業科目の試験及び進級取扱内規第4条による各担当教員が定める時間数を該当する講義時間の3分の2とする。

2) 授業（講義、演習、実習を含む）態度について

社会医学の修得を目指す本講座の教育においては、学生諸君の社会性の涵養を特に重視する。常識を逸脱した行動（講義中の私語・飲食・携帯電話・電子メール・SNS等）は厳に慎むこと。また、特に学外での実習において、約束の時間や期限などは厳守し、社会から信用される医療人として成長することを期待する。

8 教科書・参考文献

公衆衛生学・衛生学の領域は広く、全てにわたって詳しく講義することができないので、教科書及び必須図書を1冊座右に置いておくことが望ましい。

教科書：

南江堂：NEW予防医学・公衆衛生学

必須図書：

厚生統計協会：国民衛生の動向（当該年度の最新版）

滋賀医科大学：医学・保健・医療・看護と人権

参考書は教科書で足りないところを補足するものとして、以下を推奨する。

参考書：

【公衆衛生学部門・医療統計部門】

南山堂：公衆衛生マニュアル（当該年度の最新版）

医学書院：基礎から学ぶ楽しい疫学（第三版）

医療情報科学研究所：公衆衛生がみえる

メディカルサイエンスインターナショナル：疫学：医学的研究と実践のサイエンス

メディカルサイエンスインターナショナル：臨床疫学：EBM実践のための必須知識

南山堂：疫学マニュアル

メディカルサイエンスインターナショナル：医学的研究のデザイン

日本医事新報社：NIPPON DATAからみた循環器疾患のエビデンス

日本家族計画協会：健康教育マニュアル

医学書院：予防医学のストラテジー

日本評論社：医学探偵ジョン・スノウ

河出書房新社：感染地図

【衛生学部門】

風行社：人間の価値

岩波書店：新書恐るべき公害

岩波書店：新書水俣病

新潮社：沈黙の春

翔泳社：奪われし未来

労働科学研究所出版部：現代労働衛生ハンドブック（増補改訂版）

労働省労働基準局：労働衛生のしおり

労働基準調査会：産業疲労ハンドブック

労働基準調査会：頸肩腕障害

労働基準調査会：職業性腰痛

かがわ出版：腰痛・頸肩腕障害の治療・予防法

かがわ出版：現代の女性労働と健康

文理閣：二次障害ハンドブック

全障研出版部：障害児者を支える人たちの健康読本

医学書院：産業医活動マニュアル

現代書館：拜啓 病院の皆様―聴覚障害者が出会うバリアの解消を―

全日本ろうあ連盟出版局：21世紀のろう者像

「志」企画：聴覚障害者の病院受診時サポートマニュアル

農山漁村文化協会：構造薬害

9 オフィスアワー（授業相談）

いつでもよいが事前に担当教員にメール、電話等で日程調整することが望ましい。

10 学生へのメッセージ

社会医学には「正解」のない問題がたくさんある。また、時々刻々変化する日本や世界の健康問題に応じて、保健・医療・福祉の対策も変化していく。日々新聞、テレビ、インターネット等で報道される現代社会の健康問題について関心を持ち、また自分の目で現実社会をしっかりと見つめ、それらについて深く考えてほしい。

公衆衛生では人間の健康を個人個人ではなく集団として考えることが多い。集団としての健康の保持、疾病の予防・治療の視点をしっかりと身につけ、public health mindを持った医師となってほしい。また、フィールド実習を通して研究者の視点も学んでほしい。学生諸君の能動的な勉学を期待する。